

---

# 経済 TOPICS

No. 159

(2019年3月25日)

## 景気ウォッチング(要旨)

### I. 日本経済「先行き不透明感から企業マインドが急速に慎重化しつつあり、主役の設備投資にも変調の兆し」

10～12月期実質GDPはプラス成長に復したが、昨年末以降の輸出・生産・消費は不冴えで、1～3月期には再びマイナス成長に陥る可能性が指摘されるなど、景気は踊り場の様相を強めている。先行き不透明感の強まり(世界経済全体のスパイラル的な減速懸念)から、家計のみならず企業のマインドも急速に慎重化しつつあり、これまで日本経済の成長を支えてきた設備投資にも変調の兆しが見られ始めている。

こうした状況下、金融市場では、長期金利は緩やかに低下、株価は戻りの鈍い展開が続いている。

### II. 米国経済「予想以上のテンポで景気減速が進んでいるが、引続きプラス成長は維持できる見通し」

米国経済は、世界経済の成長鈍化や減税効果の剥落から、減速を続けている。米中通商問題の長期化が、輸出・生産の減少など、当初考えられていたよりも大きな影響を製造業に与えているほか、昨年末の株価急落を機に失速した個人消費が年明け後も鈍い動きを続けるなど、予想を上回るテンポで景気減速が進みつつあり、1～3月期の成長率は一段と鈍化するとみられている。

こうした状況下、金融市場では、長期金利が一段と低下、株価も勢いに乏しい展開となっている。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所